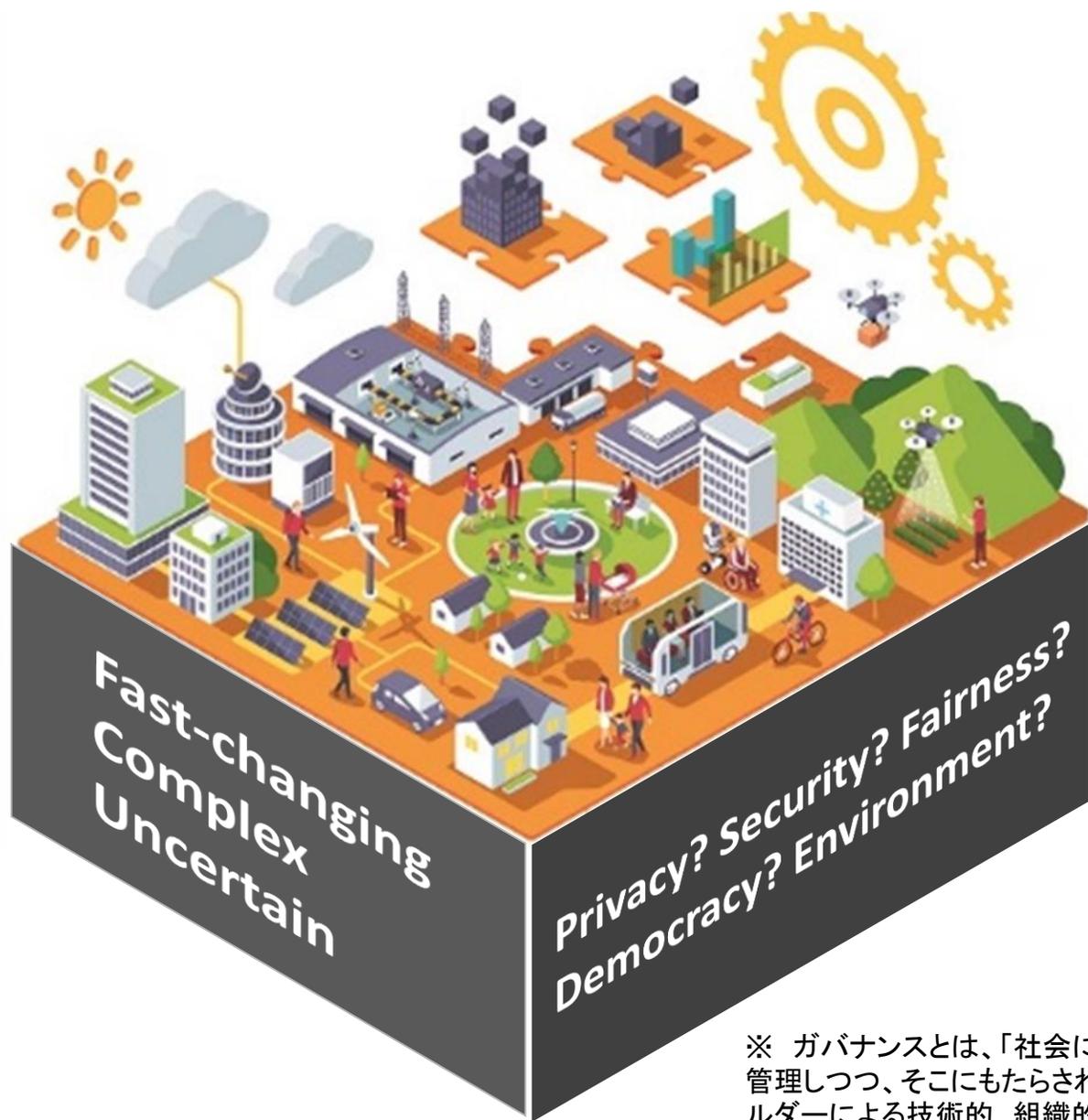


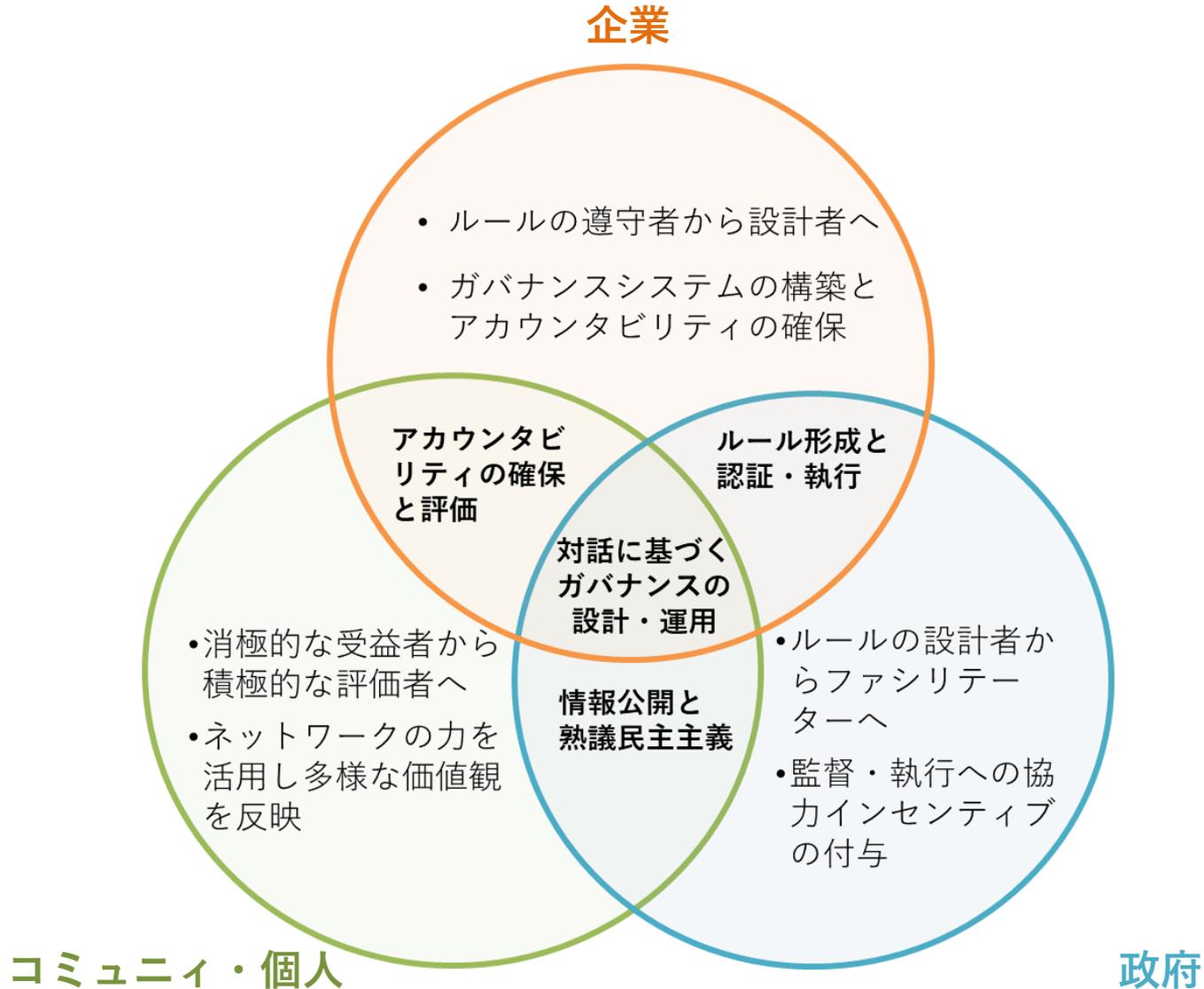
問題の所在



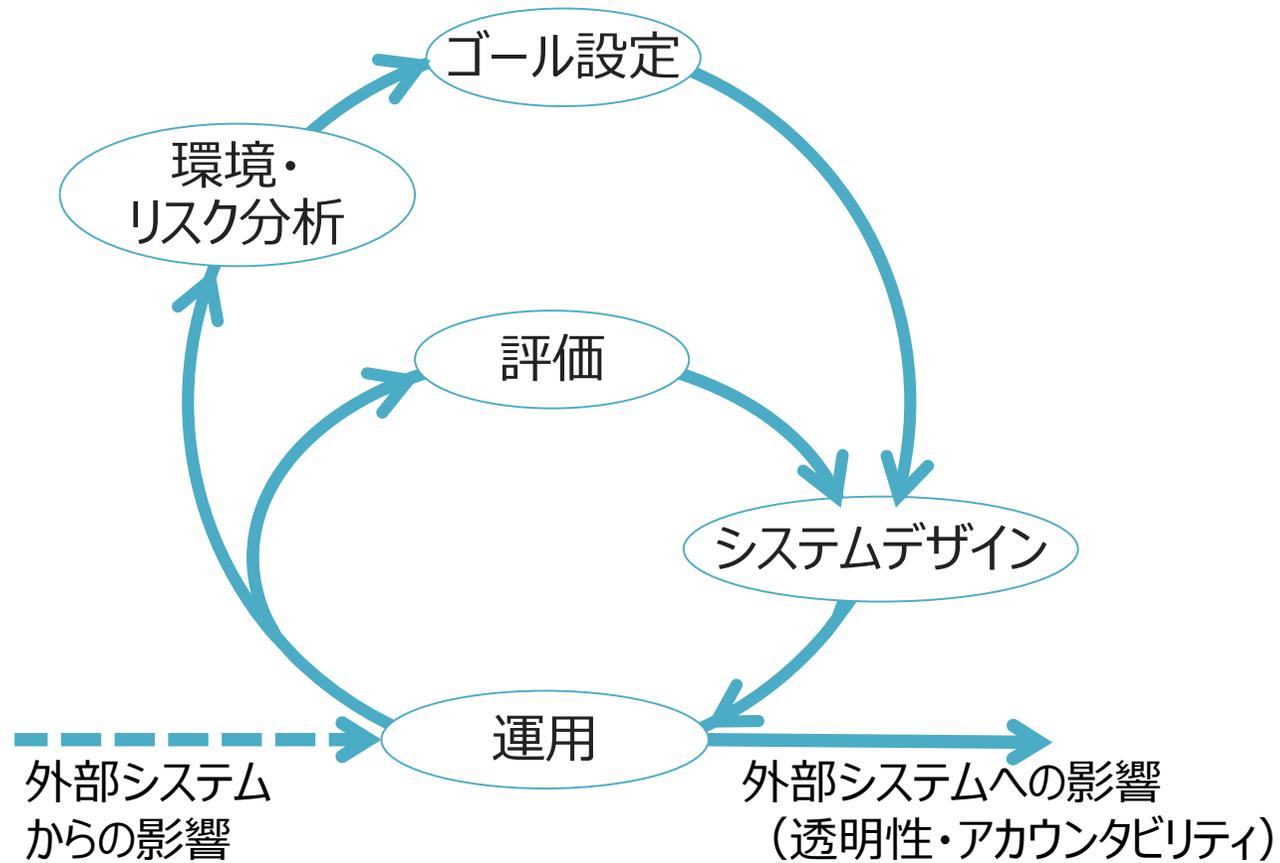
- Society5.0は、複雑で変化が速く、リスクの統制が困難
 - さらに、ガバナンスが目指すゴール自体も多様化し変化していく
 - そのため、Society5.0のガバナンス（※）には、以下の要素が必要
- ① マルチステークホルダーアプローチ
 - ② ガバナンスシステムの俊敏（アジャイル）なアップデート

※ ガバナンスとは、「社会に生じるリスクをステークホルダーにとって受容可能な水準で管理しつつ、そこにもたらされる正のインパクトを最大化することを目的とする、ステークホルダーによる技術的、組織的、及び社会的システムの設計及び運用」をいう（Ver.2 1.4）

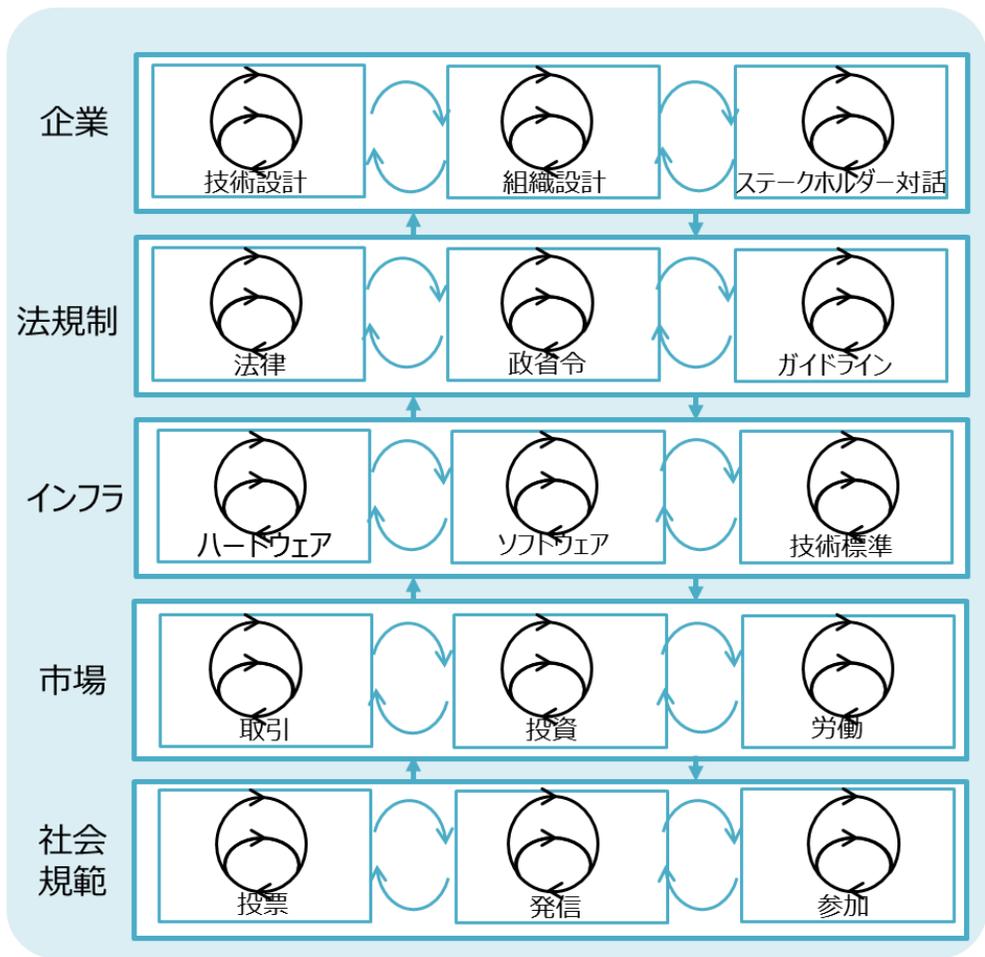
ガバナンスのポイント① マルチステークホルダーアプローチ



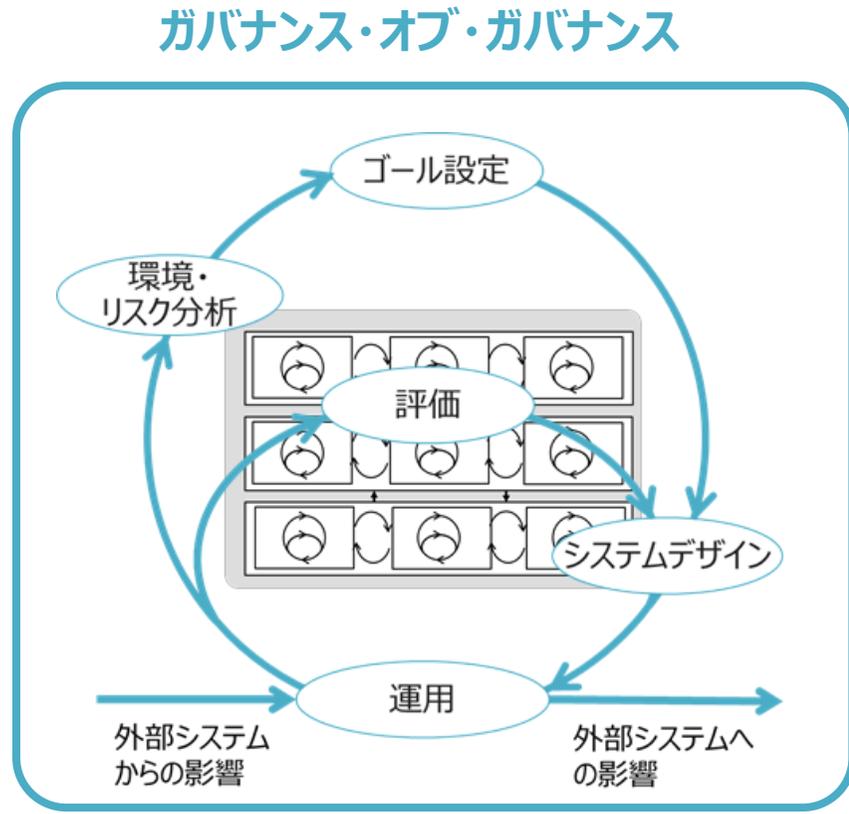
ガバナンスのポイント② 「アジャイル・ガバナンス」のサイクル



マルチステークホルダーによる「アジャイル・ガバナンス」のイメージ



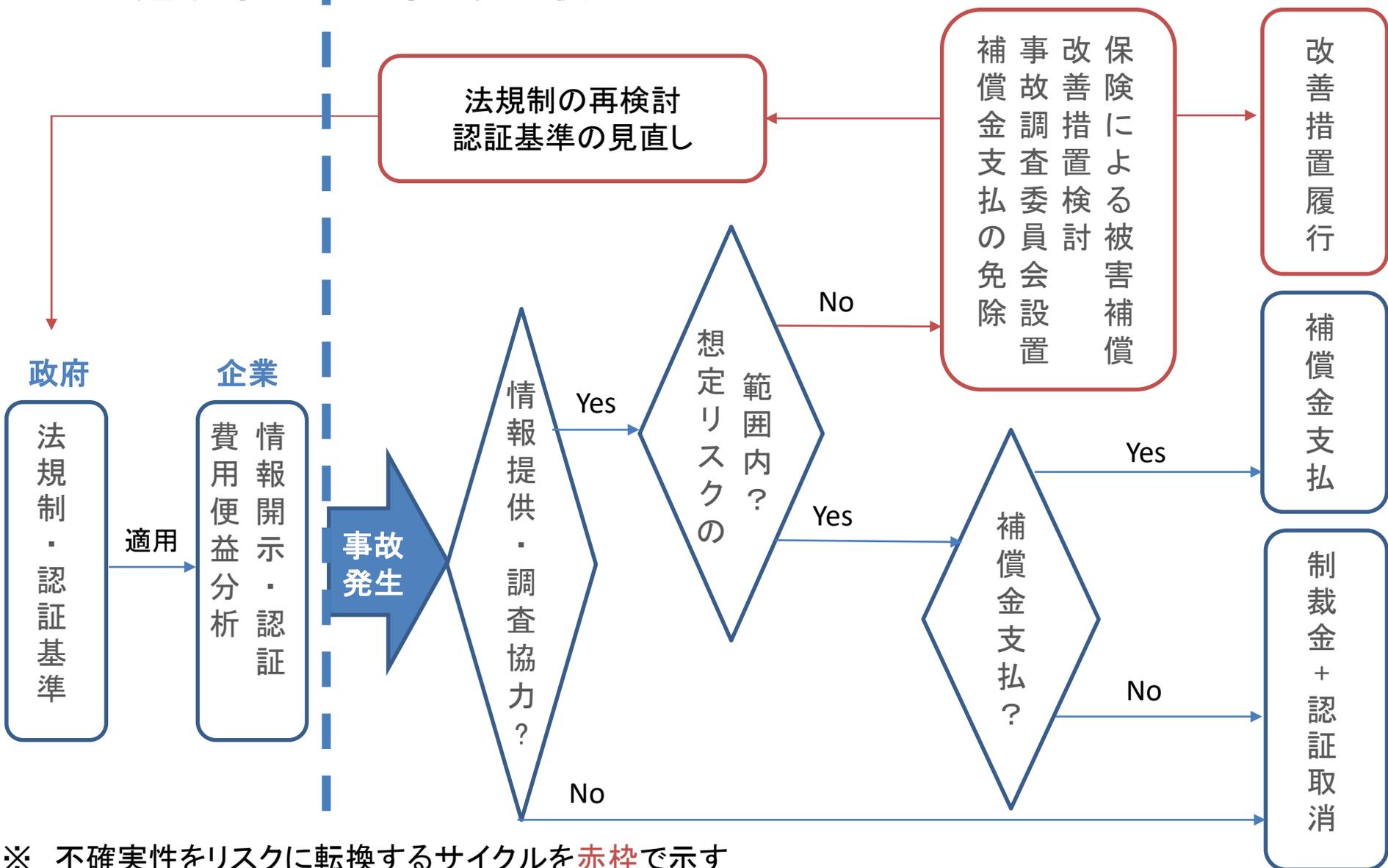
全体の
関係を
整理



【参考】学習に基づくシステムの改善を目指す制裁メカニズム

通常時

事故発生後



※ 不確実性をリスクに転換するサイクルを赤枠で示す

※ 稲谷教授の京大法政策共同研究センター報告『Society 5.0における新しいガバナンスシステムとサンクションの役割』（法律時報2022年2月号掲載予定）の資料をもとに経産省作成